

平成 26 年度 第 2 回常務理事会 議事録

開催日時：平成 26 年 7 月 25 日 18:30～

開催場所：岐臨技事務所

出席者：兼子、諏訪、浅野、藤井、柴、多和田、近藤、鈴木敦、森本

欠席者：白井

議長：兼子 徹

議事録署名人：藤井 泰三

1. 日臨技より

- ・日臨技より送金の報告があった。内訳は、

平成 26 年度会費	10,000 円×12 名	=120,000 円
平成 26 年度入会金	500 円×10 名	=5,000 円
送金合計額		125,000 円
- ・平成 26 年度「生涯教育推進研修会助成金」の送金の報告があった。

平成 26 年度秋季拡大研修会	50,000 円
-----------------	----------
- ・平成 26 年度 全国「検査と健康展」の実施について
岐阜の健康まつりを代替えとして、検査と健康展を行うこととなった。主催ではないため 50 万の助成金はもらえない。今回は乗り遅れないように、この様なかたちになったが、今後行うか行わないかを含めどの様に行っていくかが課題となる。ガンとエイズの啓蒙活動で 40 万もらえなくなったとの報告があった。
- ・検体測定室について
大きな薬局チェーン店では、検体測定室を申請し検査を行う所が出てきていますが、診断ができないため、結局病院に来る様になり、良いのではないかとの意見があった。問題は精度管理であるが、日臨技の精度管理を受ける様な方向で動いているとの報告があった。検査技師が検体測定室の責任者として行うことも考えられるとの意見があった。
- ・「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」の成立について
 - 臨床検査技師に診療の補助として採血に加え、検体採取が業務追加される。
 - 臨床検査技師法に関する法律の改正
についての資料が届いた。最初は、日臨技が講習会を行って検体採取の指導をする。検体採取などの業務拡大に関連し、検査のための薬剤投与について意見があった。

2. 中部圏支部 支部内連絡会議

- ・支部学術奨励賞の選考について、対象者は、35 歳以下の一般演題の演者との報告があった。また、支部研修会でのテキスト作成は、Power Point だけの羅列は不

適当との報告があった。

3・岐阜県より

- ・医療勤務環境改善支援センターについて
医療従事者の離職防止と医療安全などの勤務環境改善を支援する第1回の会合が先日あった。医療勤務環境改善支援センター開設にあたり、オブザーバー1名(女性)の要請があり、急いでいたため、会長がすでに池之端 早紀子先生を推薦したとの報告があった。
- ・検体測定室に関するガイドラインに係わる疑義解釈集(Q&A)の送付について
「検体測定室に関するガイドラインについて」(平成26年4月9日付け医政発0409第4号)の別紙において「検体測定室に関するガイドラインについて」を通知し、取扱いに係わる疑義解釈集を参考までに資料として送付されました。その中で、精度管理、検体採取、検査項目などに関しての意見がありました。
- ・「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」の一部施行等について(通知)
厚生労働省医政府局長、社会・援護局長、老健局長から通知があり、お知らせがありました。これにつきまして、14ページにわたる資料と、それに関する法律の資料が多数あり、次回の常務理事会で、検査技師に係わる所を議論することとなった。

4. 学術部報告

- ・新年度における岐臨技の会長・副会長・役員報告 各部門の役員の最終報告。
各部門員の案内は7月の定期発送・会員名簿・ホームページに掲載して報告する。
- ・今年度の日臨技助成金(1研修5万円)変更について説明した。今年度は決算書と参加名簿が必要となることを説明した。1部門で2個以上、最大20個の助成金申請承認を取るよう指示した。来年度から2万円+参加人数での助成に変更する要望が会長からありましたが、継続審議とした。助成金申請は、今までは「専門」のみでしたが、「基礎」でも申請対象となることを説明した。
- ・認定病理検査技師精度の説明をした。審議の結果、岐臨技会長推薦として3名の候補者を推薦したことを報告した。3名既に3日間の講習を受け、11月に試験があるとの報告があった。
- ・中部圏支部会議で臨床生理部門は、「神経生理分野」「循環器分野」「超音波分野」に区分される事を野久部門長に報告をした。そして、岐阜県での対応を依頼した。
- ・今年度の学術関連の計画案を提示した。11/23 秋季拡大研修会・3/22 岐阜県医学検査学会・6/14 春季拡大研修会を開催する。
- ・新人サポート研修会は、生物化学分析部門の研修会として企画運営していたが、来年度以降は、岐臨技主催の開催で運営する事に決定した。現在の各部門から新人サポートの担当役員を選出してワーキングメンバーとして企画・運営をする。次回部

門長会議までに担当者を報告するように指示した。来年度開催予定は、2015年5月24日か31日を候補日として調整する。場所は、岐阜医療科学大学で行う。森 さゆり担当から、6月に開催された愛知県の新人サポート研修会の報告と資料を提示してもらった。各部門長にも該当部門資料を配付して、来年度以降の新人サポート研修会に役立ててもらおうよう案内した。

- ・「検査説明・相談ができる臨床検査技師育成講習会」の中間報告を森 さゆり担当から報告してもらった。他団体への後援について北村会長が動いていないのが問題視された。新会長には、早急な対応をお願いし、技師会員にも再度案内をしてPRするよう審議された。ワーキンググループも少ないので会長・副会長の参加をおねがいをした。
- ・一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会学術組織設置要綱についての説明があった。今回新しく臨床検査総合部門が開設された。部門長、部門員も早急に決定した。
- ・中部圏支部の臨床検査総合部門の部門長の森本先生（三重大学病院）からメールがあり、岐阜県での今後の活動を共有して、一緒に行って行く。平成26年度の活動は、「精度保証認証取得」「ISO15189 認定について」等について、三重県で研修会を開催する予定です。岐阜県においても、静岡県の前会長の横地先生を外部講師として招き、内容は「今後の日臨技の方向性について（案）」を予定しています。日時は10月の11日か18日を予定します。場所は未定です。できれば会長、副会長には出席してもらいたいとの要望があった。
- ・「検査説明・相談ができる臨床検査技師育成講習会」開催に関するお願いを技師長さん宛に封筒に入れて今月発送します。
後援を取りに行かなければならない。看護協会、医師会、医療整備課、病院協会へ挨拶に行く。
- ・新人サポート研修会についての参加人数と決算書についての報告があった。
参加人数 97名 支出 238,636円
- ・外部講師を依頼する場合は必ず外部講師における講演研修会の目的を書いてもらう。両面印刷になっている。
各部門長さんに、予算書作成のための情報提供を出してもらう。交通費は部門長が、講師が車か電車かを報告をする。
- ・平成26年度日臨技中部圏支部医学検査学会における一般演題座長候補推薦について現在、生理（2名） 微生物（1名） 輸血（1名） 血液（1名） 一般（1名）合計（6名）と、中部圏支部病理・細胞診部門長の浅野 敦 副会長につきましては別枠で座長の要請がありました。平成26年7月31日までに候補者を決めた学会事務局宛にメールにて知らせます。
- ・外部講師料は10,000円、県内の技師の講師料が1,000円は安すぎるとの意見があった。拡大研修会の講師料と同じでいいとの意見があった。今後検討する。

- ・各県の部門長は、次の 3 つの条件を満たしている事。①生涯教育研修制度終了者であること。②当会もしくは支部（地区）学会において、筆頭発表の経験があること。③都道府県技師会での学術活動が 5 年以上あること。
- ・今回の秋季拡大研修会のテーマは「貧血」

5. 精度管理報告

- ・多和田理事より岐臨技精度管理について説明があった。岐臨技精度管理参加施設は 70 施設で、昨年より 2 施設減であった。今年からアルフレッサー日建さんに出入りのある参加してない施設に参加の募集をお願いしたが、1 件五島医院が取れた。その他、忘れていた所が 1 件あった。参加費を下げ（昨年より 148,000 円減収）、問屋さんにも協力をしてもらって不参加施設に声をかけたがあまり効果がなく、今後増える見込みがないとの報告があった。資料別の参加件数では大きな変動はないが、病理、輸血、細菌の参加が減少した。病理は、特殊染色が入るため減少した。
- ・8 月 24 日に資料発送、9 月 8 日解答締切り、その後 1 週間ぐらいで結果を見えるようにするとの報告があった。今の所、設問ができているのは、血液と細胞診だけと報告があった。今後のスケジュールは 8 月 4 日 Photo 設問締切、8 月 15 日に前年度回答に不具合があったため、打ち合わせ、8 月 20 日に配布事前お知らせ、8 月 24 日に岐阜市民病院で資料作成し発送、8 月 25 日～9 月 8 日までに回答期間との報告があった。資料に関してはアルフレッサー日建さんとスズケンさんに見積もりを取っている所。
- ・JAMTQC の PDF の見積書、請求書に使う公印をするのに 5 万円かかり来年度に行うかどうか検討をする。

6. 広報宣伝部報告

森本理事より岐臨技会報について報告がありました。新会長の就任の挨拶、役員退任の挨拶を載せる予定でいたが、前会長に 2 月に頼んであったがまだ来ない状況です。再度 8 月の 10 日までにお願ひしますと催促しました。催促をしてお願いしたが、忙しくてなかなか書けないとの返事が有り、締切りギリギリまで待ったが、退任の挨拶の文章が来なかったため、載せることができないとの報告があり、各理事に理解を求めた。そして 8 月 20 日発送に間に合うように修正をするとの報告があった。永井副会長の退任の挨拶は、前任から申し送りはなかった。会報は年 3～4 回ぐらいと、他に大きなイベントがあったら発行して行くとの報告があった。

ホームページは、引継ぎでは北村前会長を委員長として広報宣伝部が行っていく。ホームページは出来上がっているの、あとは更新をして行く仕事をする。古い求人が乗りっぱなしで、更新されていない現状である。現在北村前会長は技師会のホームページを作っている株式会社ディックナレッジテクノで働いているとの報告があり、更新の時は、北村前会長に変更内容をメールで送り更新をしてもらおうようになっているようで、広報宣伝部としては、すぐに更新をしてもらえれば、それでも

良いが、なかなか更新してもらえない状況ですので、広報宣伝部と北村前会長とでホームページ委員会を立ち上げ、クラウドのためパスワードの管理をホームページ委員会で自由に行い更新ができるよう北村前会長に話をし、対応する。また、今後北村前会長もホームページ委員会に入っていくかどうかを確認し、対応する。

7. 法人対応部

登記に関して 8 月の総会の時に、全員の就任承諾書を揃え、総会の議事録と理事会の議事録に署名印をしてもらい、法務局に申請をしに行く予定との報告があった。議事録は申請用に少し修正するとの報告があった。総会議事録の印鑑は認印が良いが、理事会の議事録の印鑑は実印が望ましいとの報告があった。8 月に会長交代の申請を県に行く予定との報告があった。

岐阜県より公益目的財産が 13,367,094 円で、公益目的支出の実施期間は 13 年の通知があったとの報告があった。公益（拡大研修会・県学会・健康まつり）の所は赤字（100 万/年）で行い、全体として赤字になってはならない。今までどおり（協賛も含め）に行っていけば良いと会長からの意見があった。一般法人になりましたので、貯蓄を行っていかなければならないと報告があった。日臨技から毎年 150 万の助成金を貰っているの、それが無くなると、一気に赤字になるため、あまり大船に乗ったつもりでいてはいけないと会長より意見があった。

8. 連絡事項

- ・季刊誌「ピペット」第 4 号が発刊され、事務所に 100 部届いたメールがあった。
- ・諏訪副会長より秋季拡大研修会に関する報告があった。

日時：平成 26 年 11 月 23 日

場所：下呂市交流会館 1 階 マルチスタジオ

講演：血液と輸血

市民公開講座 講師 史研鑽室 田中彰先生

題 伊能忠敬 下呂来訪 200 年（測定・測量）

近藤理事より 9/20 に秋季拡大研修会開催の案内を出すため、それまでに案内を種村さんに提出して下さいとの意見があった。

広告協賛を今から始めていいのかとの間があり、各メーカーに趣意書を渡し今から行うようにとの意見があった。

- ・平成 26 年度 第 25 回高山市市民健康まつりについて

諏訪副会長より高山市と協賛する形で行うとの説明があった。

開催日 平成 26 年 10 月 5 日（日）

時間 8：00～15：00

場所 高山市保健センター 1 階

内容 血管年齢測定 2 台

骨密度測定 1 台

岐臨技 ポケットティッシュ 100 個 配布する予定。

交通費は距離により負担する。

・第 35 回健康まつりについて

第 35 回健康まつり打ち合わせ会議議事録と予算案の紹介があった。

- ・輸血・細胞治療部門の部門長八木先生より県合同輸血療法委員会に血液使用上位 30 施設以外での認定輸血検査技師 2 名を部会委員に推薦したいとの意見があり、兼子会長が承認されました。多和田さん、樋口さん


9. その他

- ・組織図を作成する。広報宣伝部の下にホームページ委員会を設置する意見があった。

西山さんの組織図の案を参考にして会長が組織図を作る事となった。

前々年度に広告協賛を取ったが、まだ会員名簿を作成してなかったため、今年作らなければならないとの報告があった。

議長 兼子 徹 

議事録署名人 浅野 敦 

議事録署名人 諏訪 浩 印